

2025年度  
数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
(リテラシーレベル)  
自己点検・評価報告書

2026年3月31日 (火)

獨協医科大学 情報基盤センター

# プログラムを構成する授業の概要

学 部	医 学 部	看 護 学 部
科 目 名	医学情報リテラシー	情報リテラシー (旧課程：情報リテラシー+情報リテラシー演習)
開 講 状 況	1年次・必修・1単位	1年次・必修・2単位 (3年次編入生 (旧課程) ・必修・各1単位)
担 当	坂東宏和、山下真幸 (情報基盤センター)	
概 要	<p>医療分野を含む様々な分野において、より高度な情報技術の活用が進むと予想される時代において医師を志す皆さんには、従来からのICT活用リテラシーに加えて、新たな情報技術に柔軟に対応し、それらを日々の生活や学業、医療人としての活動において当たり前のように活用できる素養を身につけていることが求められる。本科目では、従来からのICT活用リテラシーに加えて、情報化時代における「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎的な力をバランスよく学修する。</p>	<p>高度情報社会において必要とされる倫理感を身につけ、適切な情報手段を自主的に選択し、活用していくための基本的な知識について学修する。また、それらの知識を活用した情報機器の操作方法、コンピュータの基本的な操作方法や統計処理技術を修得する。</p>

## 履修・成績の状況

学 部	医 学 部	看 護 学 部
科 目 名	医学情報リテラシー	情報リテラシー (旧課程：情報リテラシー＋情報リテラシー演習)
開 講 状 況	1年次・必修・1単位	1年次・必修・2単位 (3年次編入生(旧課程)・必修・各1単位)
履修者数(率)	130人(100.0%)	149人(100.0%) (うち旧課程6人)
修了者数(率)	130人(100.0%)	147人(98.7%) (うち旧課程6人)

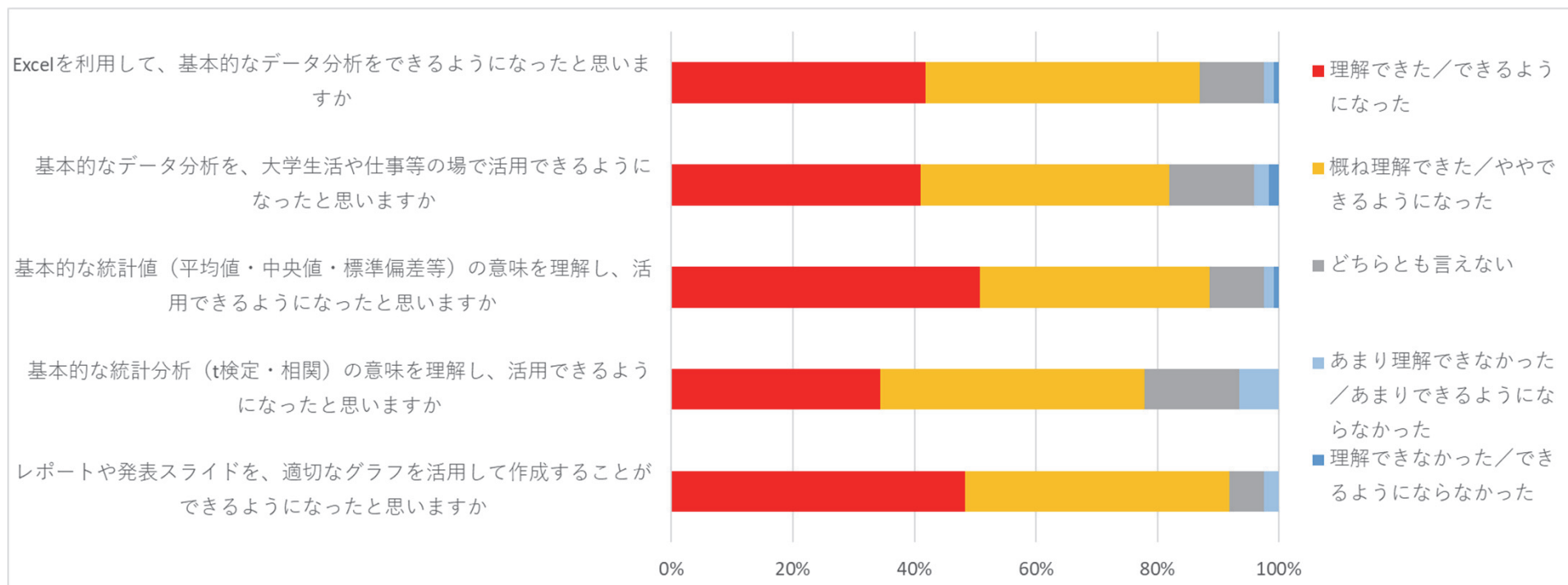
※医学部は進級判定不合格の場合、当年度に履修した科目の修了が取り消されるため、実際の修了人数が減る可能性がある

- ・医学部／看護学部どちらも全て必修科目で構成されているため履修率は100%であったが、期末試験や課題等により判定を行った結果、看護学部2人が未修となった
- ・全て必修科目で構成されているため、未修となった学生2人は、卒業までに再履修することになる
- ・修了率が100%となるよう、引き続き授業内容等の改善を図っていく計画である

# 学生による授業評価

## 【医学情報リテラシー 授業アンケート（1）】

授業評価アンケート(全授業終了時) 122人/130人 回答率93.8%

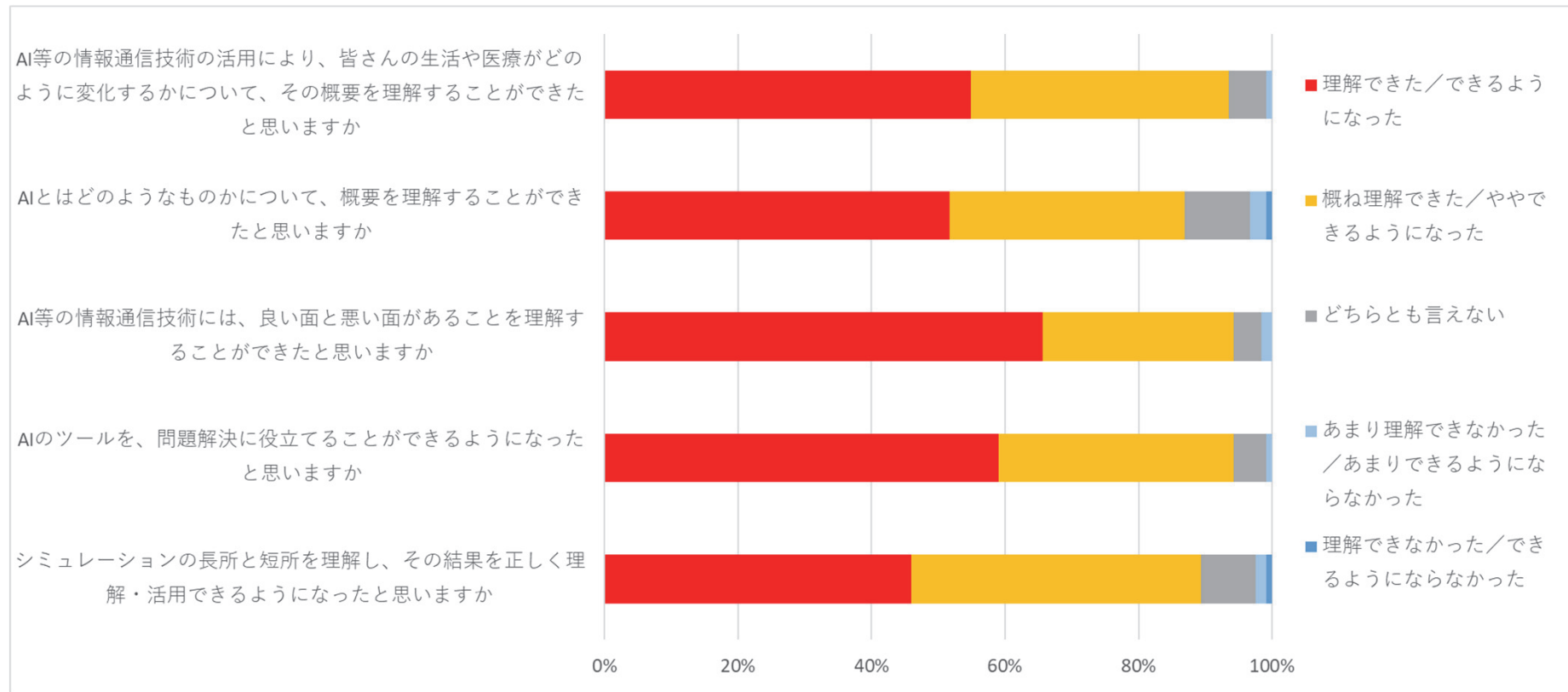


- 基本的なデータ分析の方法、基本的な統計値の意味、適切なグラフの活用については、概ね理解できたようである。一方で、20%弱の学生が、基本的なデータ分析を大学生活等に十分に活かすことができないと感じているようである
- 基本的な統計分析の意味を理解し、活用できるかについては、20%強の学生が十分に活用できないと考えているようである。来年度も引き続き授業内容・資料を再検討し、より丁寧に説明する予定である

# 学生による授業評価

## 【医学情報リテラシー 授業アンケート（2）】

授業評価アンケート(全授業終了時) 122人/130人 回答率93.8%

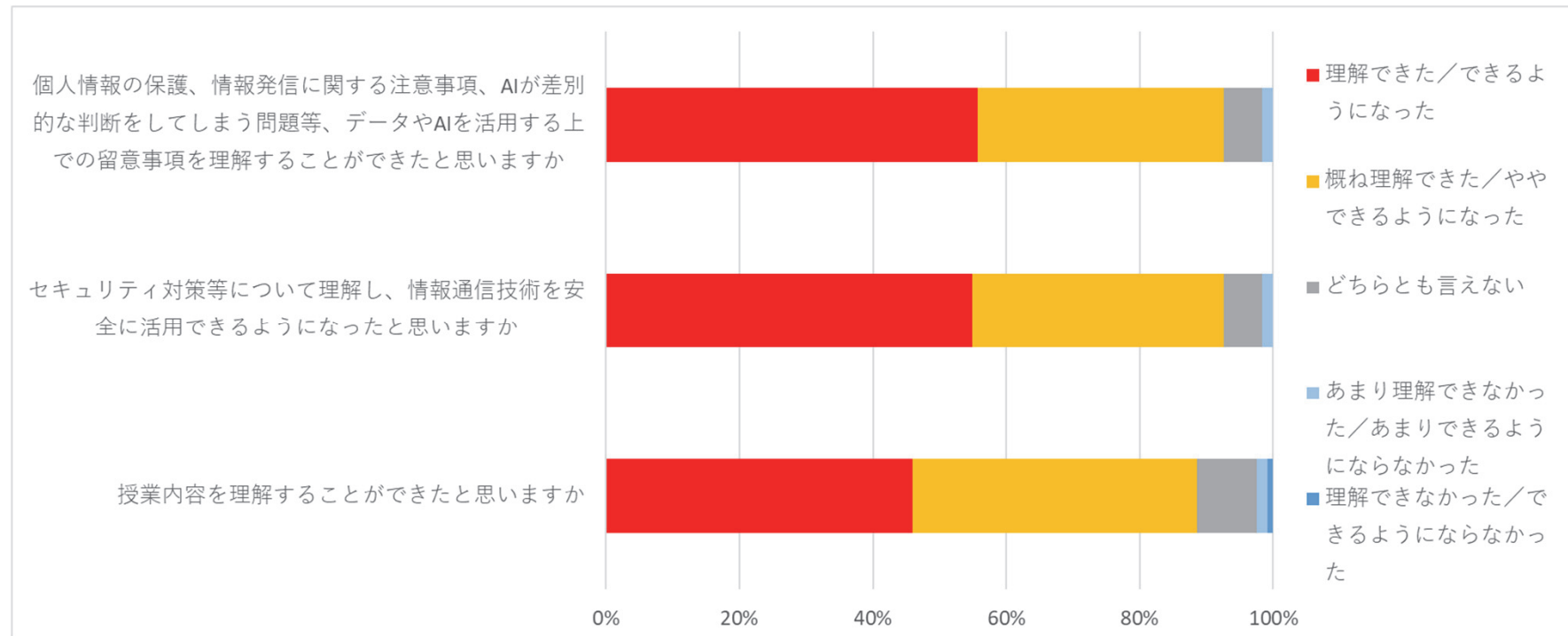


- AI等の活用による生活や医療の変化、AIの概要、情報通信技術には良い面と悪い面があること、問題解決におけるAIツールの活用、シミュレーション結果の理解と活用については、概ね理解できたようである

# 学生による授業評価

## 【医学情報リテラシー 授業アンケート（3）】

授業評価アンケート(全授業終了時) 122人/130人 回答率93.8%

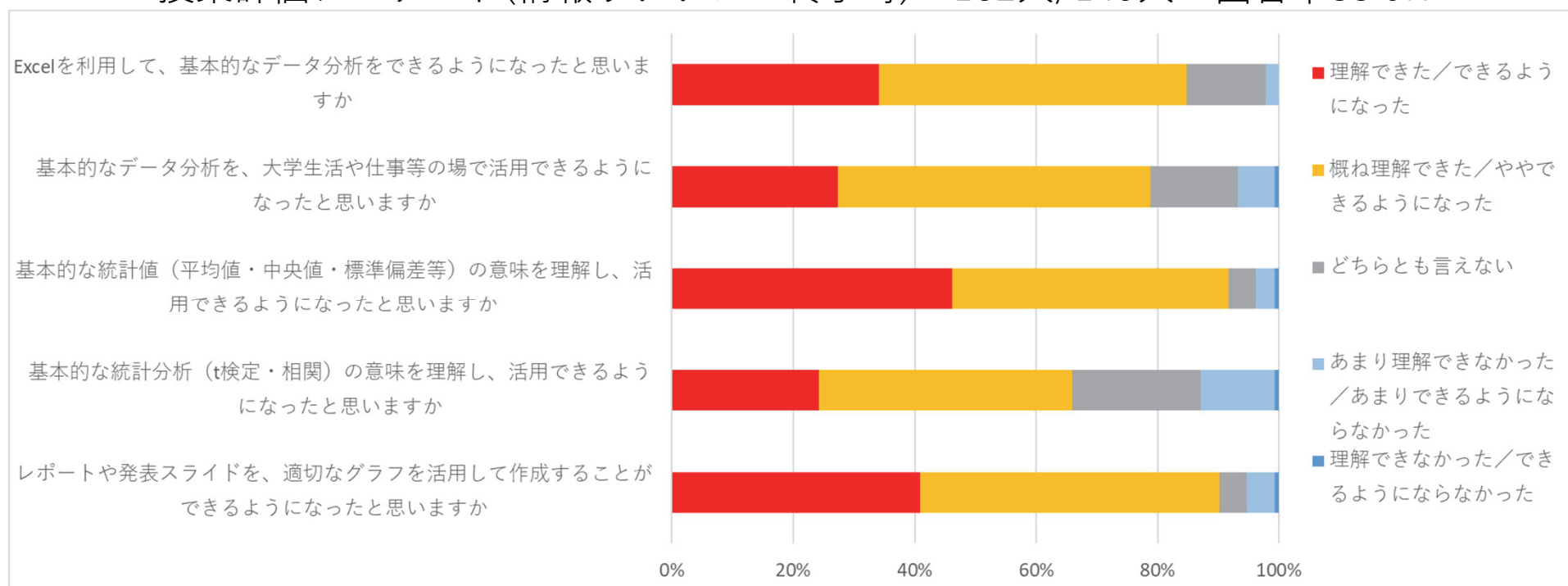


- データやAIを活用する上での留意事項、情報通信技術の安全な活用については、概ね理解/活用できるようになったようである
- 授業内容全体については、85%以上の学生が理解できた/概ね理解できたと回答していることから、大部分の学生にとって理解しやすい授業内容であり、全体として大きな問題は無かったと考える

# 学生による授業評価

## 【情報リテラシー 授業アンケート（1）】

授業評価アンケート(情報リテラシー終了時) 132人/149人 回答率88.6%

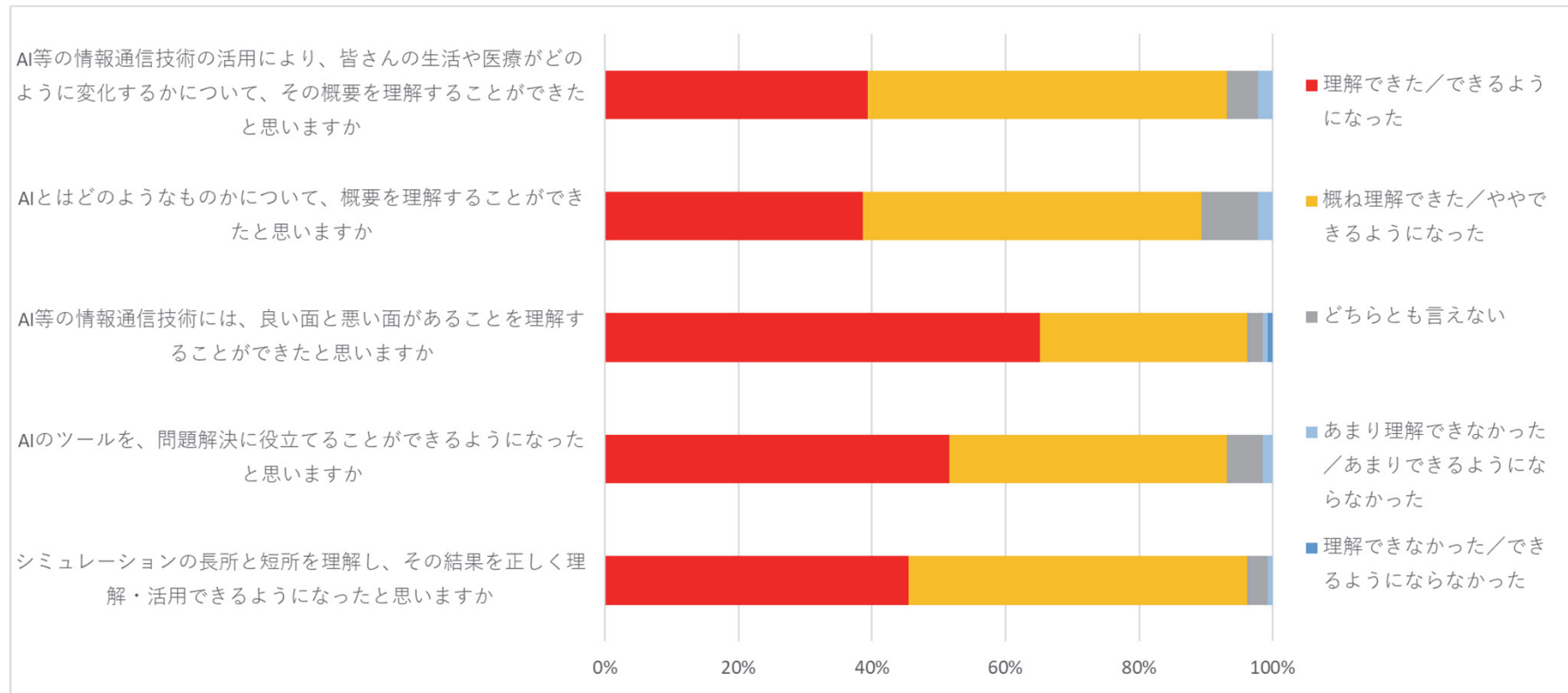


- 基本的なデータ分析の方法、基本的な統計値の意味、適切なグラフの活用については、概ね理解できたようである。一方で、20%強の学生が、基本的なデータ分析を大学生活等に十分に活かすことができないと感じているようである
- 基本的な統計分析の意味を理解し、活用できるかについては、35%程度の学生が十分に活用できないと考えているようである。来年度も引き続き授業内容・資料を再検討し、より丁寧に説明する予定である

# 学生による授業評価

## 【情報リテラシー 授業アンケート（2）】

授業評価アンケート(情報リテラシー終了時) 132人/149人 回答率88.6%

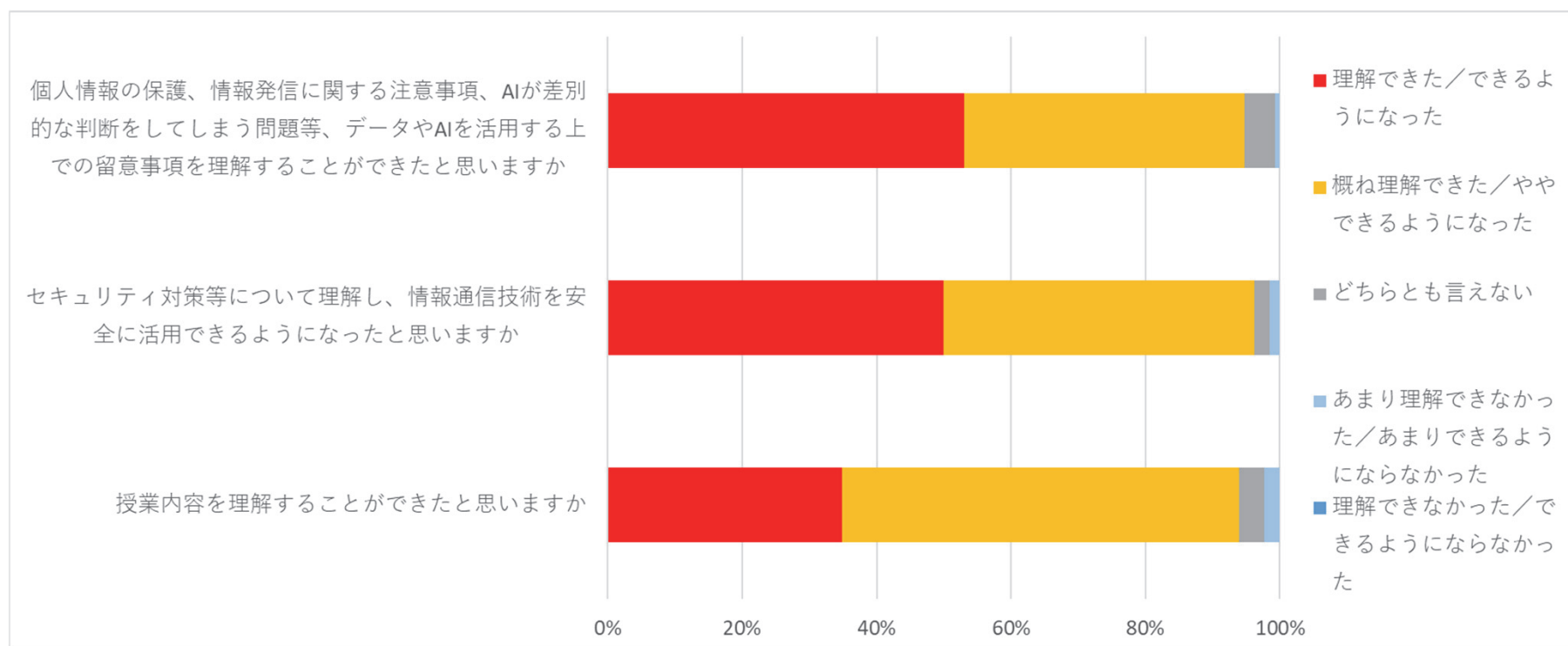


- AI等の活用による生活や医療の変化、AIの概要、情報通信技術には良い面と悪い面があること、AIツールの活用、シミュレーション結果の理解と活用については、概ね理解できたようである

# 学生による授業評価

## 【情報リテラシー 授業アンケート（3）】

授業評価アンケート(情報リテラシー終了時) 132人/149人 回答率88.6%



- データやAIを活用する上での留意事項、情報通信技術の安全な活用については、概ね理解/活用できるようになったようである
- 授業内容全体については、90%以上の学生が理解できた/概ね理解できたと回答していることから、大部分の学生にとって理解しやすい授業内容であり、全体として大きな問題は無かったと考える

## 評価のまとめ

- プログラムの修了率が98%以上であること、および、85%以上の学生が授業内容全体について理解できた／概ね理解できたと回答していることから、授業の内容や進め方に大きな問題は無かったと考えている
- 項目別の評価においては「基本的な統計分析の意味を理解し、活用できる」の評価が特に悪い状況である。今年度当該部分の授業時間を増やし、丁寧に説明したが、改善が不十分であったと認識している
- 今後も引き続き授業内容・資料の再検討を繰り返し、さらに最新の知見を適宜取り入れながら、より学生の理解度が高められるよう授業改善を行いたい